

民具収蔵庫・会津只見考古館の正式名称が決定しました!

ただみ・モノとくらしのミュージアム

ただみ・モノとくらしのミュージアム展示予定文化財

- 化石
- 原始～古代
窪田遺跡出土遺物(再葬墓のレプリカ等)
町内各所から発見された出土遺物
- 中世
成法寺観音堂と木造聖観音菩薩坐像(パネル)
成法寺木製巡礼納札 成法寺観音堂の落書き
神皇正統記只見本
古典籍類(龍藏院聖教典籍文書類、吉祥院聖教典籍文書類)
- 雪・山・川の民具
紀年銘民具の展示※年号が入った江戸時代の民具展示
- 近世
巻物(伯楽巻物、医者巻物、ヤマサキ巻物、番匠巻物等)
山塩絵図 成法寺絵馬
- 映像コーナー
早乙女踊り・神楽とその衣装 昔話

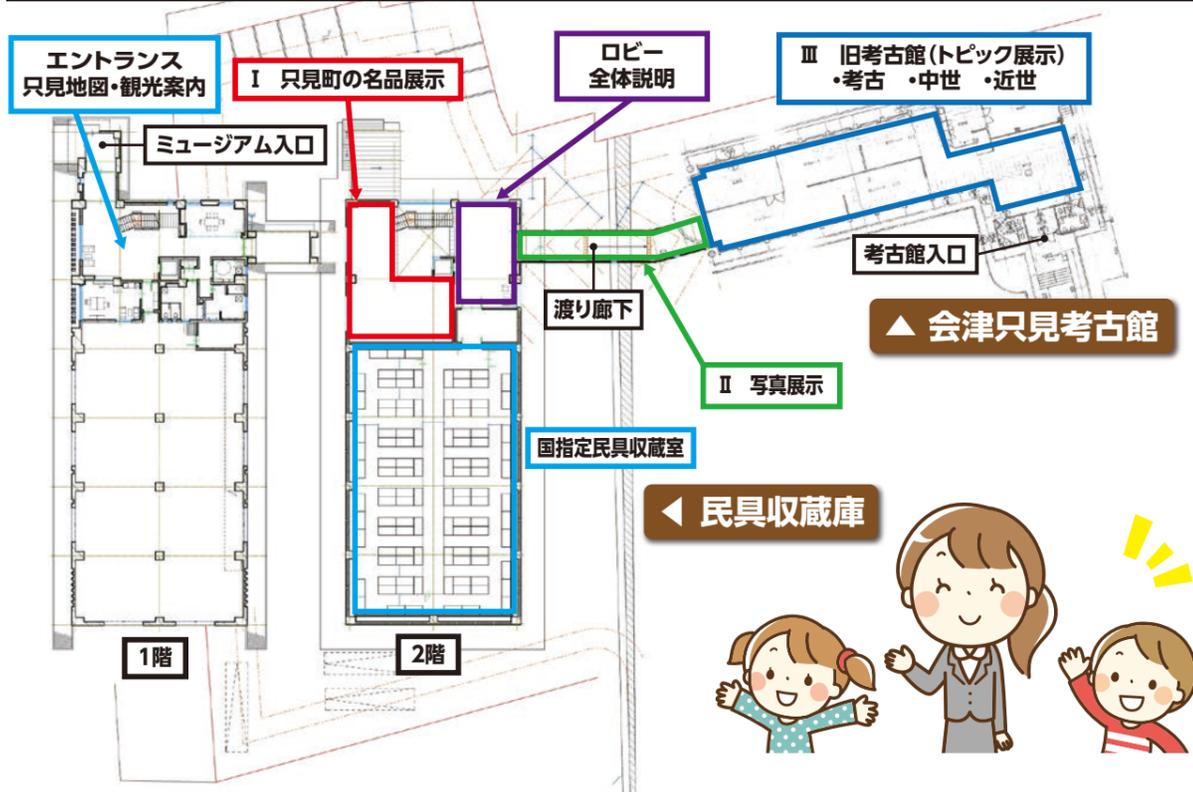


展示予定の民具等



神皇正統記只見本

ただみ・モノとくらしのミュージアム展示イメージ図



新たな資料館の誕生

現在、只見町の国重要有形文化財である民具を収める収蔵庫を建設しています。また、会津只見考古館(以降考古館)も全面リニューアルして新たな展示館となる予定です。

この2つの施設を渡り廊下で繋ぎ、一体化した施設とする計画が進んでいます。準備検討委員会では、原始時代から現代までのモノ(生活用品)を展示することにより、只見町に暮らした人々の生活・文化を表現する施設として、「ただみ・モノとくらしのミュージアム」という名称を町へ提案し、令和2年7月20日に正式決定しました。



▲ 建設がすすめられている「ただみ・モノとくらしのミュージアム」

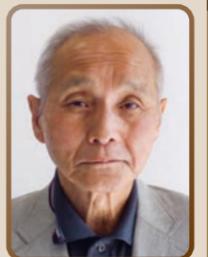
ただみ・モノとくらしのミュージアム 推進専門部会が発足

ただみ・モノとくらしのミュージアム開館に向けて、考古館の改修計画や民具収蔵庫展示室の展示内容等について専門的な提案をするため、「ただみ・モノとくらしのミュージアム推進専門部会」が発足しました。委員は、佐々木長生氏(委員長・元福島県立博物館職員、只見町文化財調査委員長)、新国勇氏(副委員長・只見町文化財調査委員)、久野俊彦氏(東洋大学非常勤講師)、飯塚恒夫氏(元只見町文化財調査委員)の4名です。

施設の総合監修が決定

ただみ・モノとくらしのミュージアムの展示を検討するにあたり、2名の総合監修者を依頼しました。民俗部門として只見町の民具を指導していただいた佐々木長生氏、歴史・文化部門として町内の古典籍を調査指導していただいている久野俊彦氏です。両先生方の指導監修のもと、展示計画を進めます。

監修者からのコメント



民俗部門監修 佐々木氏

「ただみ・モノとくらしのミュージアム」は、見る・深める・伝えるをもとに、只見町の自然と人が育んだ文化を将来に語り伝える博物館をめざし、展示計画を進めております。開館に向けて町民のご協力をお願いいたします。



歴史・文化部門監修 久野氏

「只見おもしろ学ガイドブック」の内容を立体的にして現物に近づいて学ぶ博物館です。文化財をしまいでんで保存するだけでなく、町民が近づいて感じ、楽しく発見し、愛着と誇りをいなくような博物館をめざします。

開館に向けて

令和4年4月の開館に向けて現段階で協議・検討されているものは次のとおりです。

○組織及び管理体制について
運営するための人数配置や役割などについて検討中です。

○展示構想について
考古館改修委託料及び民具収蔵庫・考古館展示設計委託料が議会9月会議において可決となりました。今後、準備検討委員の皆様の意見を集約し、反映させます。

○運営について
開館時間や休館日、入館料などの運営の方法について、関係条例などを整理し、検討をしていきます。

○運営委員会の設置について
「ただみ・モノとくらしのミュージアム」の事業計画や予算を協議する運営委員会を令和3年4月に設置予定です。

引き続き、決定内容などについては、広報ただみ等でお知らせします。